

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】令和 2 年 10 月 1 日 (2020.10.1)

【公表番号】特表 2020-500955 (P2020-500955A)

【公表日】令和 2 年 1 月 16 日 (2020.1.16)

【年通号数】公開・登録公報 2020-002

【出願番号】特願 2019-522569 (P2019-522569)

【国際特許分類】

C 0 8 L 33/14 (2006.01)

C 0 9 D 5/00 (2006.01)

C 0 9 D 133/08 (2006.01)

C 0 9 D 133/10 (2006.01)

C 0 9 J 133/08 (2006.01)

C 0 9 J 133/10 (2006.01)

C 0 9 J 7/38 (2018.01)

C 0 8 F 220/30 (2006.01)

C 0 8 F 220/18 (2006.01)

【F I】

C 0 8 L 33/14

C 0 9 D 5/00 Z

C 0 9 D 133/08

C 0 9 D 133/10

C 0 9 J 133/08

C 0 9 J 133/10

C 0 9 J 7/38

C 0 8 F 220/30

C 0 8 F 220/18

【手続補正書】

【提出日】令和 2 年 8 月 20 日 (2020.8.20)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

架橋性組成物であって、

1) 50,000 ~ 500,000 ダルトンの範囲内の重量平均分子量を有する第 1 の (メタ) アクリレートポリマーであって、前記第 1 の (メタ) アクリレートポリマーは、

a) アルキル (メタ) アクリレート、及び

b) 任意の、紫外線に曝露された時に架橋可能となる芳香族ケトン基を有する UV 架橋性モノマーを含む第 1 のモノマー組成物の反応生成物であり、前記 UV 架橋性モノマーは、前記第 1 のモノマー組成物中のモノマーの総モルに基づき 0 ~ 0.3 モルパーセントの範囲内の量で存在する、第 1 の (メタ) アクリレートポリマーと、

2) 50,000 ~ 500,000 ダルトンの範囲内の重量平均分子量を有する第 2 の (メタ) アクリレートポリマーであって、前記第 2 の (メタ) アクリレートポリマーは、

a) アルキル (メタ) アクリレート、及び

b) 紫外線に曝露された時に架橋可能となる芳香族ケトン基を有する UV 架橋性モノ

マーを含む第2のモノマー組成物の反応生成物であり、前記UV架橋性モノマーは、前記第2のモノマー組成物中のモノマーの総モルに基づき少なくとも1モルパーセントに等しい量で存在する、第2の(メタ)アクリレートポリマーと、

を含み、

前記架橋性組成物は、粘着付与剤を含まないか、又は実質的に含まない、架橋性組成物。

【請求項2】

前記架橋性組成物中の(メタ)アクリレートポリマーの総重量に基づき、前記第1の(メタ)アクリレートポリマーが80～98重量パーセントの範囲内の量で存在し、前記第2の(メタ)アクリレートポリマーが2～20重量パーセントの範囲内の量で存在する、請求項1に記載の架橋性組成物。

【請求項3】

紫外線に曝露された請求項1に記載の架橋性組成物の反応生成物を含む架橋された組成物。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0155

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0155】

試験対象の試験片を、接着剤側を上にして、作業面上に配置する。試験片は、傾斜台が試験片の上方に配置された後に、少なくとも12インチ(300mm)のテープが露出するように位置付けられる。傾斜台の反対側に位置する試験片の端部は、テープによって作業面に保持される。清浄で乾燥したトンクを用いて、5.6グラムのボールを傾斜台の最上部におけるリリースピンの上側に配置する。ボールの中心から作業面までの鉛直距離は2.75インチ(70mm)である。リリースピンを押し下げることによって、ボールは解放されて傾斜台を滑り降り、ボールが接着剤表面上を転がって停止することが可能となる。ボールが最初に接着剤と接触する場所から、ボールが停止する地点までの距離を測定する。